

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No. 238

2025 年 6 月 27 日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

みんなの「すき」を大切にできる子どもたちををめざして  
ジェンダー平等教育部会 授業研究会

2023 年6月に、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様に関する国民の理解の増進に関する法律」が成立・施行されました。「全ての国民が、その性的指向またはジェンダーアイデンティティにかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものである」との基本理念にのっとり、性的指向やジェンダーアイデンティティを理由とする不当な差別はあってはならないとの認識のもと、相互に人格と個人を尊重し合いながら共生する社会の実現をめざしたいと思い、保健学習の中だけではなく、人権学習・道徳として授業を考えました。

時数	教科	指導概要 (★重点指導内容)
1	保健	思春期にあられる変化「第二性徴」 ・体の外の変化（性毛が生える・乳房や筋肉の発育など）を知る。 ・体の中の変化（月経・射精）を知る。 ★新しい命を生み出すための準備であること。個人差があり、一人ひとりちがうこと。
2	保健	思春期にあられる変化「多様な性①」 ・SOGIE「体の性」、「心の性」、「好きになる性」、「表現する性」を知る。 ★性の4つの要素があり、性は多様で、一人ひとりちがうこと。 みんなそれぞれの「すき」があること。
3 本時	道徳	思春期にあられる変化「多様な性②」 ・みんなの「すき」を大切にする方法を考える。 ★性の4つの要素を知り、みんなの「すき」を大切にできるようにすること。

また、4年生では、第二性徴で自分や周りの人の体（体の性）について学習をします。自分のセクシュアリティ（性のあり方）について自覚するのが小学生から高校生までの学齢期が多いとされているため、多様な性について学習することはとても大切です。この大切な時期に LGBTs などのセクシュアルマイノリティについて知るだけではなく、「体の性」、「心の性」、「好きになる性」、「表現する性」の性の4つの要素があり、その4つの組み合わせによって一人ひとりの性のあり方が様々であることを学び、それぞれの「すき」を大切に、一人ひとりが多様な性の当事者として尊重し合える関係性をつくる素地づくりができる授業をおこないたいと考えました。

第1時で、「個人差がある」、「一人ひとりちがう」と学んだ上で、第2時で性の4つの要素があることを知り、「心の性・表現する性」や「好きになる性」で悩む二人の話を動画（Ally



Teacher's Tool Kit【認定NPO 法人 ReBit】）視聴し、自分の「すき」を大切にすることの大変さや難しさを感じ、本時を迎えました。自分の「すき」を大切にし、悩んできた二人の思いを受け、『みんなの「すき」を大切にするために、自分に何ができるのか』を考えました。考えたのち、自分たち以外の動画の中に出てくる人の考えも知り、考えを深めました。考えて知るにとどまらず、絵本【右記】を読み子どもたちが寄り添いたいと思った主人公を決め、その主人公の「すき」を大切にし、どのような声を掛けるのかを考えました。自分で声かけを考えたのち、班で話し合い、ホワイトボードに声掛けをまとめました。「前向きになる言葉を掛けたい」、「男子が男子を好きになることは悪いことではないと、きちんと伝えないとだめだよ」と今までの学習を生かして考えている班が見られました。



《子どもたちに事前提示した絵本》

「心の性」 せかいにひとりだけのぼく【モモンガプレス】  
「好きになる性」 すきっていぬきやだめ?【岩崎書店】  
「表現する性」 ぼくのスカート【学館】  
子どもたちは、『すきっていぬきやだめ?』を選びました。

子どもたちは、主人公のぼくに

だれがだれを好きになってもいいんだよ  
くるしくなったら信らうしている人に  
相談してもいいんだよ  
自分らしさの好きがなくなるように  
応えんしてよ。

自分が「すき」だと思ったら、それは「すき」でいいと思うよ。  
同じ性の人が「すき」でもけして変ではないよ。  
ほかの人の言葉は気にせず自分らしくいればいいんだよ。  
自分が思うことに自信をもてばいいんだよ！  
無理に「すき」にならなくてもいいんだよ。  
無理に相手に「すき」と言わなくてもいいよ。  
ただ自分を大切に思えばいいよ。

などと声をかけていました。

子どもたちの感想の中には、「自分らしく大切なものは大切にと言うことだったら、自分にもできるな」、「みんな一人ひとり自分のすきがあって、そのすきを大切にしたら、その人もうれしいし、自分もうれしくなって、より仲がよくなるんだな」、「話しやすい存在になる」、「みんなのサポーターみたいな関係になれたらいいな」などの意見がありました。それぞれの「すき」があることを知り、自分の「すき」も友だちの「すき」も大切にしたいと自分たちのできることを考える姿が印象的でした。

事後研究会では、「声かけをすることは、子どもたちの気持ちを引き出す上で効果的だった」、「他人事ではなく、みんなの幸せをめざすことをもっとめざせるとよいのでは」などの意見があがりました。ここで終わりなのではなく、またこれから子どもたちの「すき」が大切にできる学級づくりをしていこうと思っていました。学びが広がった研究会になりました。

